

# 「ほっかいどう学」地方創生塾(伊達市大滝区)

## 2年目 第1回

日 時	令和2年7月6日(月) 19時30分～21時
会 場	オンライン形式
参加者	9名
内 容	テーマ「有珠山が噴火した際(災害時)、大滝の住民ができる役割について」

第1回ほっかいどう学地方創生塾(伊達市大滝区)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン会議ツールを活用して実施した。参加者は、「たきしんくらぶ」メンバー7名のほか、NPO法人 ezorock 代表理事の草野 竹史 氏、北海道立生涯学習推進センター社会教育主事の田尾 和祐 氏がオンラインで参加した。

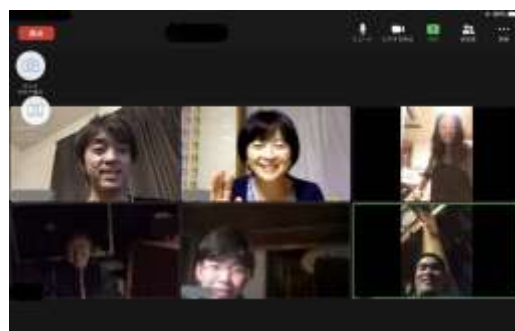
1時間30分にわたるオンライン会議では、前回の有珠山噴火時の体験を各メンバーから聞き取り、想定される被害内容について確認した。噴火後に移住してきた住民もいることから、住民を対象とした自然災害や避難方法について理解する学習の場をつくるのが大事であること、災害時には大滝の住民だけで対処するのではなく、近隣市町村などの団体と協働していくことが有効だということが、オンラインでの意見交流や草野塾長の助言から気付くことができた。

草野塾長をはじめ、様々な立場でオンライン研修に参加したメンバーから、大滝の立地条件にあった避難所運営や災害対応ができること、特に災害支援のハブ地点として、多くの可能性があるという提言もあり、災害時を想定して地域住民の防災意識を高める大切さを確認できた会議だった。

### 成果と課題

災害ボランティアの経験が豊富な草野塾長から他市町村や他団体の活動事例の情報を聴くことができ、これからの「たきしんくらぶ」としてできること、やるべきことなど活動の方向性が見えてきたことがよかった。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策がとられている中、「たきしんくらぶ」メンバーや地域住民を一堂に会した取組ができないことに苦慮している。



【オンライン会議の様子】



【地域の活動をおたき新聞で情報提供】